

## 「室内環境構成」における気付きに関する研究（6）

### A Study of “Awareness” to the Indoor Environmental Composition (6)

林 鎮代

Shizuyo Hayashi

#### 要 約

「環境による保育」が重視される中、学生にはまず環境への「気付き」が必要とされる。学生への「気付き」の調査を行い、実習経験の有無や学びの期間によって「気付き」の傾向に違いがあることが明らかになった。その結果を踏まえて、保育の現場で実際に「環境による保育」を実践していくための視点を保育者の「気付き」から探った。調査結果から、保育者は学生とは異なった特徴でもって環境を捉えていることが明らかとなった。保育者の特徴とは、全ての環境を援助の視点からとらえるものであった。

本研究では、これらを総合的に分析・考察して、保育者の「気付き」の力を学生に育成するための指導を行い、その効果を実証・検証した。

キーワード：保育者養成、環境構成、気付き

#### I. はじめに

1989年の文部省による幼稚園教育要領改訂で、初めて「環境を通して行う教育の意義」が表わされた。それは、1999年の改定においても、2008年の文部科学省の幼稚園教育要領と厚生労働省の保育所保育指針の同時改定においても、さらに2017年に告示された文部科学省の幼稚園教育要領と厚生労働省の保育所保育指針、内閣府の幼保連携型認定こども園保育・教育要領にも、受け継がれている。

当然、保育者養成において環境の構成についての指導は、重要性を増してくる。実際に保育現場で環境の構成をしていくためには、まず環境の構成に対して具体的な「気付き」がなくてはならない。しかし、保育を志す学生の環境への「気づき」の観点にしばっ

てデータを取ってなされた研究はなかった。そこで、学生の「気づき」のデータの分析・考察をすることから、保育者養成に効果的な指導の方法が明らかにされるのではないかと考えた。

林（2008・2009）は、実習未経験の1年次学生と実習既経験の2年次学生の「気付き」を調査して、内容を6つのカテゴリーに分類し、考察した。さらに、林（2010）は実習未経験の3年次学生の調査を加えることで、「気づき」の内容は実習経験の有無だけでなく学習年数の長短においても影響されることを明らかにした。

そして、林（2011・2012）は、日々計画的に環境を構成していく保育者がどのような「気付き」をするかを調査した。保育者の調

査結果からは、保育者は、幼児一人一人の具体的な発達をイメージし、活動の意味を捉え、保育者の援助を念頭において環境を見る姿勢が徹底しており、明らかに学生とは一線を画す専門家としての「気付き」があることが明らかとなった。

養育者養成期間は、通常2年間コースと4年間コースがあり、それぞれの実習時期は異なっている場合が多い。本研究では、その両方のコースにおいて活かせる指導方法の一つとして提案することを目指した。

## Ⅱ. 研究の目的

学生の保育への意識が、大きく変わるきっかけの一つに実習がある。

- ・ 幼児の捉え方が、具体的になる。
- ・ 幼児を取り巻く環境を意識的に見るようになる。
- ・ 保育者の動きや保育教材の意味を考えるようになる。

等の変化が現れる場合が多くみられる。

本研究では、保育の中での「気づき」を学ぶとき、どのような手順や教材で授業に取り組むことが適切であるかを実践検証し、学生の環境の構成力育成の一提案とすることを目的とする。

## Ⅲ. 研究の仮設

望ましい幼児の活動の展開において、計画的で適切な環境の構成は、欠かせない保育の基本的な視点となる。その視点を持つにいたる「気づき」の指導を、学生の実態に合わせて段階的に行うことで、効果的な育成が期待できる。

## Ⅳ. 研究の内容

### 1. 調査の対象

第1回目：2007年10月～11月

（短期大学1年114名、2年次164名）

第2回目：2009年5月

（4年制大学3年次 43名）

第3回目：2010年3月

（A市立保育園 保育士16名）

第4回目：2012年10月

（4年制大学 2年次55名）

網掛けは保育実習の既経験を表し、網掛けでないものは保育実習が未経験であることを表す。保育士は、全員が有資格者であることから保育既実習と表した。

### 2. 調査の方法

調査には、室内環境構成に限定して作成したDVDを使用した。

（調査用DVD 8～56"の内容）

2007年8月に「気付き」の調査を目的に、愛知県B市立保育園でビデオ撮影をした。夏季保育中であった保育園の乳児クラス、3歳児クラス、合同保育の4、5歳児クラスの3クラスを画像に収めた。

ビデオ撮影においては、各室内と一部テラスのみを撮影対象としたのであるが、偶然画面に入り込んできた園児と保育者の姿が一部分含まれている。

（質問紙＝A4判1枚）

質問紙には、3クラスの枠のみを設け、「気付き」を自由に記述できるようにした。この調査の方法は、全ての調査において共通で行った。

#### （調査の流れ）

（1）調査用紙には、調査用DVDを2回視聴した後に記入する。

- (2) DVD視聴では、保育室が変わる場面など、最小限の説明に留める。
- (3) DVD視聴後も、書き終わるまで時間を十分とる。

### 3. 「気付き」のカテゴリー分類

第1回目の調査結果から、「気付き」の視点をKJ法により次の6つのカテゴリーに分類した。

- ①壁面、室内の装飾、雰囲気に関する「気付き」
- ②用品や設備に関する「気付き」
- ③表示に関する「気付き」
- ④材質に関する「気付き」
- ⑤園児に関する「気付き」
- ⑥上記以外の、主に保育者の援助に関する「気付き」

（以後、番号のみ、あるいは内容の一部を省略して表記する場合もある）

この分類方法では、「絵本」「絵本スタンド」とあれば用品の②に分類し、「絵本スタンドで絵本コーナーが（ゆったり読めるように）複数作られている」とあれば、用品を保育者がさらに活動の援助として活用したところまで気付いたものとして⑥と分類するなど、学生の「気付き」の視点を中心にして分類した。

### 4. 事前指導の導入

調査を重ねていく中で、学生の「気づき」への効果的な指導方法について考えた。

保育現場で働く保育者の「気づき」は、予想した通り幼児の活動を発展させ、寄り添う視点が多く表れたものであった。

学生の「気づき」をより保育者に近づけるようにするためには、「気づき」の道筋を段階的に指導していく必要があるのではないかと考えた。

そこで、段階的な指導の事例の一つとして、事前指導に2枚の画像教材（図1）を使用することで、学生の「気付き」への意識の深まりを求めた。

（第1段階の指導）

目標＝「気付き」についての基本的な事柄、視点を知る。

学生には事前に「今までの調査で、学生は目に見える環境のみで「気付き」を捉える傾向があるが、保育者は見える環境の裏にある活動への援助の意図に気付く。保育においては、環境の構成はそこに遊ぶ園児と保育者の援助の姿を想定して行うことが重要である。」と知らせた。

（第2段階の指導）

目標＝練習課題を行い、視点の具体的な理解をする。（図1の画像2枚を使用）

#### 環境への「気付き」

- ・環境はあるのではなく、保育者の意図により構成されている。
- ・環境から保育者の意図を考えてみる。
- ・読み取った意図について検討する。
- ・保育者の意図に気付く。
- ・どこを見て何に気付くか？
- ・理由を考える（保育者の意図）  
なぜこのようにしたのか？  
なぜこのようにする必要があったのか？



図1 事前指導用画像

練習シートは本調査と同じ形式用紙を用い、年齢枠には画像が印刷してある。

2枚の画像には、それぞれに下記のように説明が入れてある。

（画像1枚目）「園舎前でサッカー．柵の奥は砂の中に遊具がある」

（画像2枚目）「玄関前のピロティ．奥に芝生と砂場の遊具が見える」

各画像で、最初に気付いた一つを、保育者の援助の視点から考えてみる。

（第3段階の指導）

目標＝グループワークで、基本的な事柄に気付いていたか確認しあう。

- （1）4～6人のグループで話し合い、グループの代表が話し合った「気付き」を発表する。
- （2）発表内容と教員からのコメントを聞いて、自分の「気付き」の視点は適切であったかを検証し、必要があれば「気付き」の補完を行う。

## V. 調査結果と考察

第1回目から第4回目までの調査の結果を比較するために、各調査の対象人数が異なるため、カテゴリー毎の「気付き」の数は一人当たりの平均数とした。平均数は、小数点第2位を四捨五入したものである。

### 1. 学生の「気付き」

はじめに、指導前の第1回目調査の1年次（実習未経験）、2年次（実習既経験）、第2回目調査の3年次（実習未経験）の学生の「気付き」を、カテゴリー別の平均値で図2に表わし比較した。

（分析．考察）

②の数が多いのは、最初に目に入りやすく学生の関心も高いカテゴリーであるからと思われる。ただし、数値に現れた視点の捉え方では、全年次の学生は質問紙に「絵本、机、イス、畳」等と殆どを単語の羅列で書いており、目についた物品の名前をそのまま挙げていて、その存在の意味合いを深く考える解答はなかった。②の次に多かったカテゴリーは

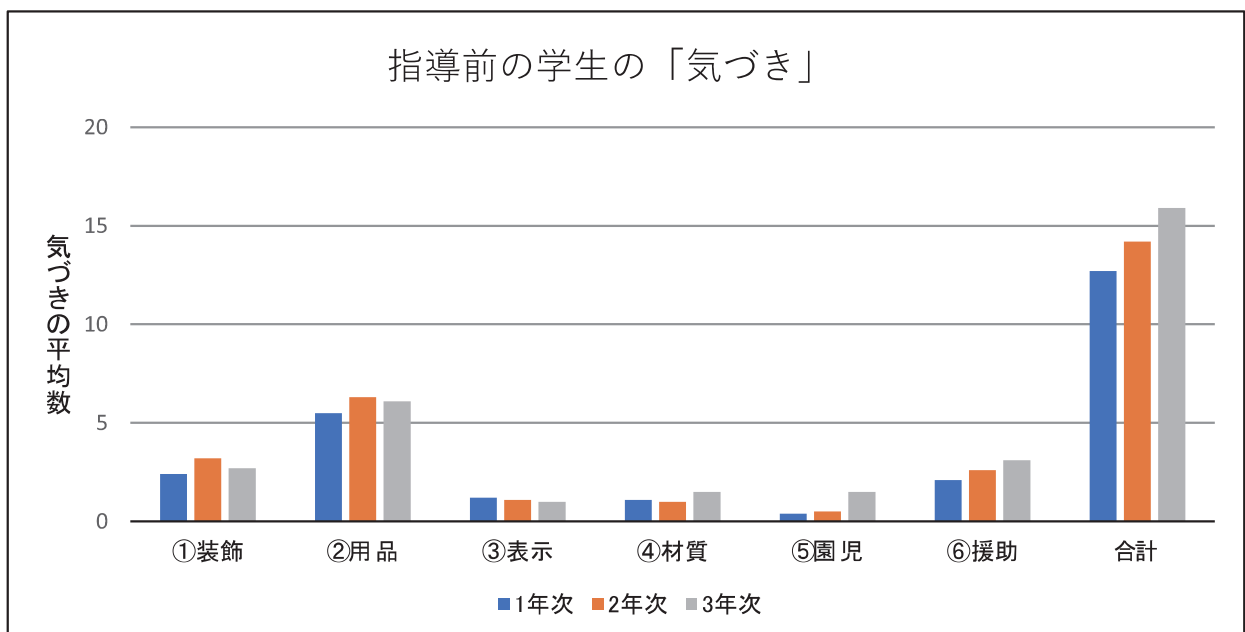


図2 カテゴリー別と合計の気付き

①、⑥と続くが、1年次と2年次では、いずれも学びの期間が長く実習経験を持つ2年次の方が多い。

実習未経験の3年次の「気づき」は、①、②では1年次より多いが、実習既経験の2年次よりは少なくなっている。しかし、④、⑤、⑥、合計数では最多となっている。学年が上がり学びの期間が長くなるにつれ、表面的に環境を見ることからその裏の保育者の援助を見ようとする視点へと変わってきた表れと考える。そして、援助の対象となる園児にも注目度が高くなっている。

このことから、実習の有無より学びの期間の長さが「気づき」の深まりへの影響が大きいと言う結果が得られた。

## 2. 保育者への道

保育を学ぶ学生たちの目標は、専門職として保育現場で活動する保育者の力量により近づくことにある。今回は、その一部分である日常的に幼児の望ましい活動の展開を目指して環境の構成を実践している保育者の「気づき」を目指すものである。そのために、保育者の「気づき」とは、どのようなものなのかを調査した。

### （1）保育者の調査結果から

調査した16名の保育者の経験年数は、1年から25年までバランスよくそろっている。図3に、経験年数順に保育者を1から16まで番号で表してある。

また表1には、保育者の「気づき」の概要を「備考」として表した。

（分析・考察）

「気づき」の合計数の最少は7であり、最多は26とその差は3倍以上と大きい。しかし、経験年数の多い保育者が、「気づき」の

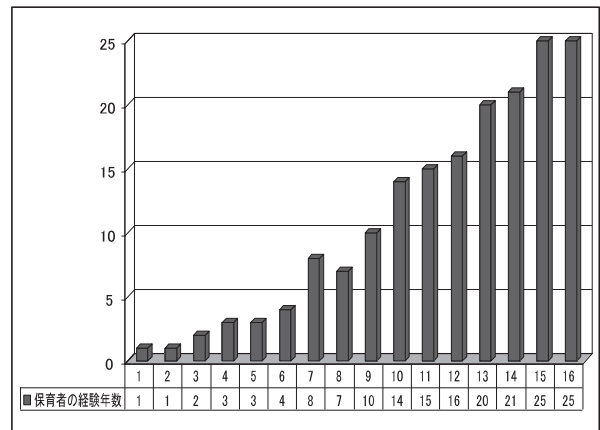


図3 保育者の経験年数

数も多いという傾向は見られない。「気づき」の数と経験年数との関連性は見られない。経験年数2年の3の「気づき」は18であるが、経験年数15年の11と20年の13の「気づき」は9とその半分である。そこで、それぞれの保育者の「気づき」の内容を読んでみると、経験年数によって「気づき」の深さに違いが見られることが分かる。

その例をあげると、3は③で靴箱のマークに触れた記述では、「一人一人のマークが大きくてわかりやすい」「所定のロッカーなどがわかりやすいように、決められた個人のシール（マーク）が貼られていた」と、見て分かる保育者の意図の利点を答えている。それに比べて、11、13は「マークの大きさが適切である。横面よりも、正面や下の面に貼った方がより見やすいのではないかと、保育者の良い点に気づきつつ、さらに改良案まで考えていて、より深まりのある回答となっている。

同様なことは、「気づき」の合計数18の経験年数2年目の3と経験年数10年目の9においてもいえる。3は安全への援助について「《用具》の角などは危険がないようカバーがされている」と見て分かる安全性を記述しており、13は「畳の上に布が敷いてありま



表1 各保育者の「気付き」

保育者	① 装飾	② 用品	③ 表示	④ 材質	⑤ 園児	⑥ 援助	合計	備 考
1	2	3	3	0	0	5	13	・画紙・高所に物・個人情報（記録・トイレ）
2	2	4	2	0	1	8	17	・タオル感染・曲・
3	2	3	1	1	0	11	18	・高所に物
4	1	5	1	0	0	10	17	・タオル感染・高所に物・給食にマスクやエプロン
5	1	1	1	1	0	3	7	・タオル感染
6	4	5	1	0	0	8	18	・画紙
7	2	3	2	0	0	6	13	・画紙・畳に布・個人情報（記録）
8	2	4	1	2	1	8	18	・個人情報（トイレ）
9	2	2	3	2	0	9	18	・画紙・畳に布・個人情報（記録）・配膳台と水槽近い
10	1	5	2	0	0	8	16	・高所に物・タオル感染・個人情報（記録）
11	0	3	1	0	1	4	9	・タオル感染
12	2	6	0	1	2	15	26	・画紙・配膳台と水槽近い
13	2	0	2	0	0	5	9	・高所に物
14	2	0	3	0	0	7	12	・画紙・高所に物・タオル感染・畳に布
15	1	0	2	1	0	6	10	・画紙・高所に物・タオル感染
16	1	1	0	0	0	9	11	・タオル感染・個人情報（記録）・マスクやエプロン
計	27	45	25	8	5	122	232	

したが、乳児は足腰がしっかりしていない子は多いと思われますので、滑りやすく（布がずれるため）危険かと思います。集まる時は、動かないように（布を）配慮した方がよいと思います。」と、乳児の発達に基づいた安全面の具体的手立てまでしっかりと述べている。ここまでの保育者の記述から、保育者の「気付き」と経験年数との関連性は、数ではなく内容の深まりにあることが分かった。

このように、個々の「気づき」をより正確に理解するには、数の他に「気付き」の深まりも見えていくことが重要となってくる。また、「備考」を見ると「画紙での展示は、抜けて危険」（7人）「高所（布団棚）に段ボール箱を乗せているのは、落下の危険がある」（7人）「タオル掛けの園児のタオル同士が接触して感染の恐れがある」（8人）「個人記録ノートが、棚に並べてあり隠してないことは、情報管理上問題ではないか」（4人）など、防災安全面や衛生面、情報管理の視点は

全員の保育者に見られ、経験年数による差異は見られない。これは、保育者に専門家意識がしっかり根付いているものと考えられる。

### 3. 事前指導の効果

学生に事前指導をすることで、より保育者に近づくことを期待した。成果はあったのかを、指導前後の学生と保育者の「気づき」を表2、図4に表し、結果を分析・考察した。（分析・考察）

表2では類似の回答は割愛したので、記述の量がそのまま「気づき」の量ではない。両者の「気づき」の大きな違いは、保育者は自分の保育観をもとに環境を捉え総合的に記述しているのに比べて、学生の多くは一つ一つの物や状態から保育者の援助の意図を探ろうとしている。

①でも、保育者は「室内環境はただ飾るだけでなく、それを見た子どもたちの感受性を育てるものである」と良い。自然物をもっと活

表2 「気付き」の概要

カテゴリー	事前指導後の学生	保育者
① 装飾	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが製作した壁画を飾る。</li> <li>季節に合わせて壁画や子どもが描いた絵を飾っている。</li> <li>プリントの掲示に画鋏を使っている。</li> <li>壁面の製作が立体になっている。</li> <li>壁面があるが、子どもの目線より上に付けている。</li> <li>活動の思い出を絵などの作品で残すだけでなく、写真を貼るなどしている。</li> <li>掲示物を押しピンでなくテープで止めてある。（低い位置の場合）</li> <li>子どもの作った作品を壁に掛け、子どもの意欲を引き出せるように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物で季節に合わせて子どもたちの作品が掲示されているので、友達の作品も見られる。</li> <li>掲示物などが手作りで温かみがある。</li> <li>保育室全体がカラフル。もう少し色目の統一感があったほうが、落ち着いた雰囲気になれる。</li> <li>ままごとコーナーは家庭的な雰囲気です遊べる飾りがあると良い。</li> <li>掲示物が目線からかなり上にあるが、その意味はあるのか。また、画鋏は外れて落ちたとき、踏む危険性がある。</li> <li>ただ飾るのでなく、子どもたちの感受性を育てるものであると良い。自然物をもっと活用していくと良い。</li> </ul>
② 用品	<ul style="list-style-type: none"> <li>あまり細かな物は置いてない。（口に入れてしまうから）</li> <li>ハサミやテープなどが分けてあり、名称を書いてまとめておく。</li> <li>下駄箱と水道、タオルの一体感、どこから帰ってきても、そのまま手洗いうがいができる。</li> <li>子どもが整理整頓しやすいように1人ずつ籠が並べられている</li> <li>一人一人の体温計を備えて、感染症などを防ぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロッカーや棚の上など、高いところに物がたくさん乗っていた。地震の際、危険かもしれない。</li> <li>本棚に絵本がたくさん置いてあるため、見にくい。</li> <li>製作活動が自由にできるように、ハサミ、紙、ペンなどがきちんと整理整頓されて置いてあった。</li> <li>タオル掛けがテラスにあった。戸外遊び後すぐに拭けるが、衛生面が気になる。</li> <li>体温計が1人に1つずつあり、なぜだろうと感じた。</li> </ul>
③ 表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱ごとに物が別れている。（色も変化していて、わかりやすい）</li> <li>誕生日の写真が飾ってあって、何月に誰が誕生日か分かる。</li> <li>自分の名前が平仮名で書かれているのがまだ分からないので、熊とかパンダのマークを付けといて、自分のマークだと分かるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>靴箱のマークが横の面に大きく付いていた。大きかったのでわかりやすかったが、正面、下面でも見やすいのではないか。</li> <li>個人の持ち物の場所に絵と名前が表示してあるため、わかりやすい。下駄箱の所では、横に表示してあるため靴をしまっても見やすい。</li> </ul>
④ 材質	<ul style="list-style-type: none"> <li>床に柔らかいマットやじゅうたんが敷いてある。</li> <li>椅子や机にあたったとき、痛くないように布が付けられている。</li> <li>ドアにはストッパー？クッション材が貼られている。</li> <li>数字マット《ウレタン》や畳などの床で足に触れる感覚の違いや安全な場所を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の椅子が木製である。</li> <li>布が多く使ってあって、温かさを感じた。</li> <li>畳の上に布が敷いてありましたが、乳児は足腰がしっかりしていない子が多いと思われますので、滑りやすく（布がずれるため）危険かと思います。敷くなら集まる時か、動かないように（布を）配慮した方がよいと思います。</li> </ul>

④ 材質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ままごとのコーナーと絵本のコーナーは畳にしている。座ったりすることが多いから。</li> </ul>	
⑤ 園児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当番を決めて、仕事をしている。</li> <li>・ 先生が配膳している間、座って待つ。</li> <li>・ お当番の子が、みんなの机にご飯を配っていく。</li> <li>・ 給食の用意をきちんと場所が決まってい、守っている。</li> <li>・ 給食の当番の子は、給食エプロンを付けている。</li> <li>・ 4人1グループで食事をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当番制で、給食の配膳を幼児が行っていた。</li> <li>・ 配膳中は落ち着いて待つことが出来ている。</li> <li>・ 子どもの配膳当番用の帽子とエプロンは、着替えやすく衛生的にも良い。</li> <li>・ お当番（給食）さんは、マスクをされて衛生的にされたほうが良いと思います。</li> </ul>
⑥ 援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもちゃを手の届かない高いところに置く。</li> <li>・ 棚の中身が見えるとその中身を触りたくなるから、カーテンで仕切って見えないようにしている。</li> <li>・ 話し言葉がゆっくり。</li> <li>・ 絵本は表紙がわかるように置いてある。サイズも小さめ。棚は子ども達の背丈のあたりに、必要なものが全てあるような高さになっている。</li> <li>・ 水道の近くにタオルがあり、すぐ手が拭けるようになっている。</li> <li>・ 絵本を読むスペースには、いつも座る椅子とは違う色の椅子を置いて区別を付けるようにしている。</li> <li>・ 先生がファイルを管理。（一つにまとめて）</li> <li>・ コップは蓋のあるケースに入れておく。</li> <li>・ 生き物を子どもたちと同じ目線の所に置いておいて、いつでも見られるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども達が生活しやすいような導線になっている。</li> <li>・ 乳児クラスなので、環境構成上あまりいろいろな物を設置する事は安全面でも支障があるかと思うが、ある程度のコーナー設定と生活の流れや活動を考えた導線作りは必要かと思う。（子どもの動きやすい、大人の無駄な動きが無く、子どもに目が届く）</li> <li>・ ままごとコーナーには、ごっこ遊びが発展性のあるものへと移行できるよう用意されている。例えば、衣装、寿司屋さんなど。しかし、雑然としているため整理されていると遊びたくなる雰囲気になるのではと思う。</li> <li>・ タオル掛けのタオル《とタオル》が触れて、衛生面で感染症予防のため、細長く4つ折りにしてクリップで留めてぶら下げる等、工夫が必要</li> <li>・ 個人記録のファイルが、なぜ保育室にあるのか（個人情報の管理から）</li> </ul>

用していくと良い。（生活や行事などが感じられるものも良い）飼育物も、どのようなねらいでもって設定しているかが考えられているか」と、考えを述べ、改善の具体的方法を提示し、さらにそのために持つべきねらいにまで記述が及んでいる。

そこには、保育現場で働く専門職としての意識の高さと意欲的な姿勢がみえる。事前指導後の学生は「子どもたちが製作した壁画を

飾る」「季節にあった壁面がある」「季節に合わせて壁画や子どもが描いた絵を飾っている」「壁面の製作が立体になっている」などの文章表現が多くなり、「壁面があるが、子どもの目線より上に付けている」「子どもの作った作品を壁に掛け、子どもの意欲を引き出せるように」などと、保育者の意図に気付こうとしているものや、はっきりとねらいをあげているものもあった。学生のこうした



「気付き」には、事前指導以前の調査では物品名の羅列が圧倒的に多かったことと比較すれば、大きな進歩が認められる。

環境の捉え方は、各自の保育観と密接に結びついているものであり、画一的である必要はない。しかし、基本的事項はしっかりと守って保育は実践されなければならない。例えば、“安全”や“個人情報管理”も、そのうちの一つである。

A市では、毎月保健師が保育所に訪問指導をしている。保育士たちが揃ってタオルからの感染の可能性や給食用マスクをとり上げているのは、訪問指導との関連が考えられる。また、B市では、健康管理の一環として毎日体温測定をしており、乳児の体温計は個人持ちとしている。

しかし、A市の保育士は「体温計が1人に1つずつあり、なぜだろうと感じた」と述べている。学生の一人は「一人一人の体温計を備えて、感染症などを防ぐ」と、その理由に気付いている。調査をすることで、保育者自身も学生も多様な方法や考え方を知り、見直したり、自ら高まったりする良い機会となった。

図4では、第1回目から第4回目の調査の

一人当たり平均値を比較した。

保育者と学生を比較すると、保育者は①②④⑤では少なく、③⑥が多い。特に⑥の多さは突出しており、保育者の「気付き」の大きな特徴と言える。これは、日常的に乳幼児への援助を念頭に置きながら生活をしている保育者と、実習経験はあるものの毎日の生活に必ずしも乳幼児との触れ合いのない学生との意識の差が表れたと考えられる。

ここで、事前指導の効果を測るために、指導前の学生と指導後の学生を比較する。指導後の学生は指導前の学生に比べ、①②で少なく③④⑤⑥が多くなっている。事前指導前の学生は②が最も多く、⑥は②のおおよそ半分程度である。それに比べ、事前指導後の学生は⑥が（6.5）と最も多くなっている。その数は、事前指導前の学生（1年次2.1・2年次2.6・3年次3.1）の2倍から3倍の多さで、ここに最も大きな変化を見せている。

最後に、事前指導後の学生と保育者を比べると、学生は保育者が最も着目する⑥について、保育者（7.6）に大きく近づいている。⑥以外は、全て保育者より多くなっており、

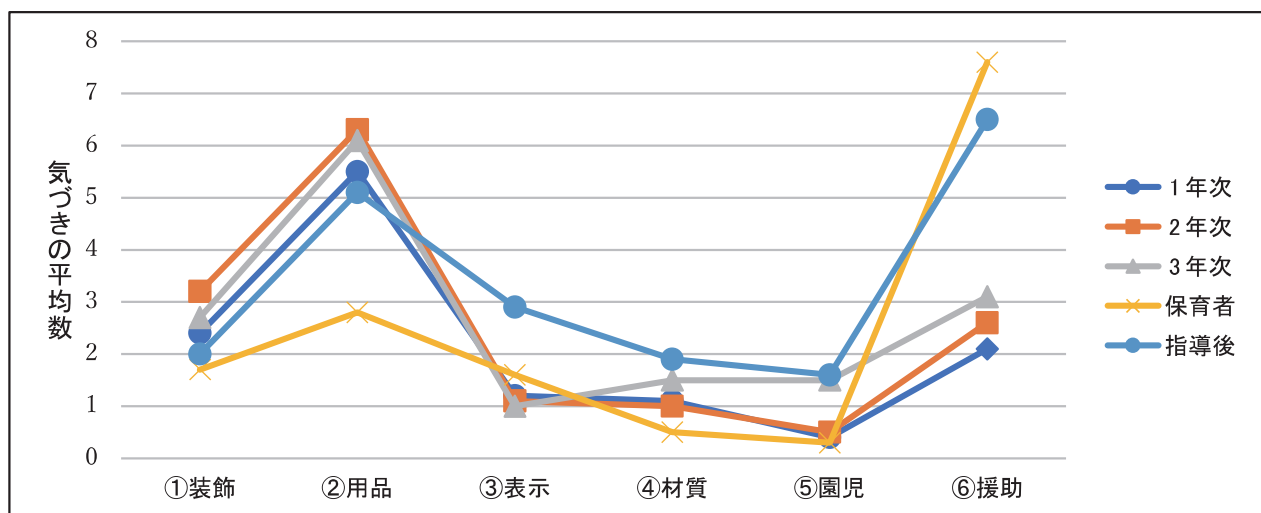


図4 学生と保育者のカテゴリー別「気付き」

総数では最多となっているが、最も重視すべき⑥における「気づき」の質が、より保育者のものに近づいたという点で、事前指導は「気づき」の育成に効果があったと考える。

## VI. おわりに

研究をするにあたり、必ず保育者養成の実践に活かすようにしてきた。「環境を通して行う教育」の重要性は、筆者自身が保育現場の中で身にしみて感じていた。今回の研究で仮説が実証されたことにより、事前指導の重要性が明らかとなった。今後は、学内の学びや実習経験を通して年次ごとに目標を設定し、指導のステップを細やかに積み上げることで、学生の環境構成力向上への一層効果的な指導をしていくことが期待できると考える。

## 【文献】

- 林 鎮代・他（2009）.「室内環境構成」における「気付き」に関する研究（1）－保育者養成校学生1年次と2年次の「気付き」の比較を通して－. 日本保育学会第62回大会発表論文集, p.298.
- 林 鎮代・他（2008）.「室内環境構成」における「気付き」に関する研究（2）－保育養成校学生1年次と2年次の比較を通して－. 中京短期大学論叢, 39（1）, pp.35-40.
- 林 鎮代・他（2010）.「室内環境構成」における「気付き」に関する研究（3）－保育養成校学生1.2.3年次の「気付き」の比較を通して－. 日本保育学会第63回大会発表論旨集, p.359
- 林 鎮代（2011）.「室内環境構成」における「気付き」に関する研究（4）. 日本保育学会第64回大会発表, PB-091.
- 林 鎮代（2012）.「室内環境構成」における

「気付き」に関する研究（5）. 人間福祉学会誌, 11（1）, pp.53-57.

文部省（1989）.「幼稚園教育指導書増補版」

文部省（1999）.「幼稚園教育要領解説」

文部科学省（2008）.「幼稚園教育要領解説」

文部科学省・厚生労働省・内閣府（2017）.「幼稚園教育要領」,「保育所保育指針」,「認定こども園保育・教育要領」